

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、情報の提供などを行ってきました。また、研究委員会の下で震災復興のための農村計画研究や放射性物質で汚染された農地の復旧技術研究を進めています。最近では、11月17日に日本農学会が公表した「東日本大震災からの農林水産業の復興に向けて」の作成に参画しました。また11月30日には、「震災復興農村計画への提言（第二次）」を公表しました。

今後とも会員諸氏が専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されることを期待しております。東日本大震災に関する活動をされた会員は、学会事務局（suido@jsidre.or.jp）あてに情報提供をお願いします。寄せられた提言や情報を災害対応特別委員会の活動に反映するとともに、学会ホームページや学会誌などで公表し、会員間の情報共有と一層の社会貢献に努めます。

会 告

○平成24年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて ㊦ 申込締切 4月6日	66
○平成24年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2月17日	71
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願ひ	71
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い	72
○論文集の電子投稿・査読システムの運用開始について（予告）	72
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	72
○平成25年の表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3月31日	73
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	74
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願ひと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願ひと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	75
○平成23年度京都支部講習会・研修会の開催について（第3報） ㊦ 申込締切 2月10日	76
○平成23年度中国四国支部シンポジウムの開催について ㊦ 申込締切 2月10日	76
○平成23年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第1報） ㊦ 2月25日開催	77
○水土文化研究部会第9回研究会の開催について（第1報） ㊦ 3月1日開催	77
○第57回風に関するシンポジウムの開催について 申込締切 1月31日	78
○第49回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について 申込締切 2月29日	78
○第7回ICIDアジア地域会議における発表論文の募集について 要旨締切 1月24日	79
学会記事	80

第80巻第2号予定

展望：中央アジアにおける土壌の塩類集積と農業の生産性低下：エルナザ マクマドフ

小特集：国内外における農地での塩類集積の事例と課題

- ①ウズベキスタンにおける塩害農地の現状と課題：奥田幸夫ほか
- ②中国・黄土高原チェックダム農地における塩類集積：李 鴻ほか
- ③タイ国東北部における塩類集積土壌の実態と修復保全対策：中村貴彦ほか
- ④黄土高原下流域の塩類化農地における流水客土の除塩効果：北村義信ほか
- ⑤新疆ウイグル自治区における水資源開発と耕地塩類化：阿布都沙塔尔買提明ほか
- ⑥七尾湾沿い水田地帯の塩害とその対策：村島和夫ほか

技術リポート

- 北海道支部：「北野地区」における区画整理計画の検討事例：南部博幸ほか
 東北支部：青森県における深暗渠によるナガイモ・ゴボウの生産性の向上：丸谷有希
 関東支部：より遡上効果の高い魚道を目指して：大橋利一郎ほか
 京都支部：山間を走る用水路の更新工法：井狩康一ほか
 中国四国支部：山口県における地下水位制御システムの取組み事例：俵 真二郎ほか
 九州支部：沖縄地域のパイプライン機能診断技術：嘉数松彦

小講座：高潮・津波により海水が侵入した農地での除塩対策：原口暢郎

私のビジョン：「協働」の力：加藤 幸

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催地	掲載号
平成24年1月18日	北海道支部	講習会	ⓑ 寒冷地における農業用水施設の長寿命化に向けて	札幌市	79巻11,12号
平成24年1月20日	材料施工研究部会	第50回シンポジウム	ⓑ 大規模災害に対する農業基盤施設の安全性と今後の設計技術	新潟市	79巻10,12号
平成24年1月25日	技術者継続教育機構東北地方委員会	平成23年度研修会	ⓑ 東北管内に於ける農業用施設等の被災と復旧状況について、ほか	仙台市	79巻12号
平成24年2月16日	京都支部	平成23年度講習会・研修会	ⓑ 農業水利施設の長寿命化について(仮)ほか	京都市	79巻11,12号 80巻1号
平成24年2月23日	中国四国支部	平成23年度シンポジウム	ⓑ これからの農業土木技術者のあり方～ストックマネジメントに係る技術力の向上～	岡山市	80巻1号
平成24年2月25日	農業水利研究部会	平成23年度研究集会	ⓑ 東日本大震災による被災地の水利復興における土地改良区の取組み～千葉県北部利根川下流域での事例～	東京都	80巻1号
平成24年3月1日	水土文化研究部会	第9回研究会	ⓑ 取水堰の歴史的価値と評価	東京都	80巻1号
平成24年9月18～20日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ —	札幌市	79巻12号 80巻1号

平成24年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成24年度農業農村工学会大会講演会は、北海道大学札幌キャンパスにおいて平成24年9月18日(火)、19日(水)、20日(木)の3日間、開催を予定しています。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。

今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌3月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限りです。講演申込み受付の際、会員番号を確認します。非会員の発表は認めません。学会会員入会手続きに関しましては別途HP (<http://www.jsidre.or.jp/guide/nyukai.htm>) をご参照願います。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、**企画セッション発表は認めます**。1人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発

表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、**プログラム編成上、やむを得ず発表形態の変更をお願いする場合があります**。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態は、学会ホームページで6月末までにお知らせします。また、ポスターの大きさ等については代表発表者へ、直接メールにてお知らせします。そのため投稿票に記載するメールアドレスは間違いのないよう、お願いいたします。

- (6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分(質疑時間も含む)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に集録します。200字を超えるものについては、文章を割愛させていただきます。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出、および申込料 2,100 円（税込）の納入をもって申込みとみなします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を記載してください。年会費等まとめて支払う場合には費用名も記載して下さい。なお、送金後に発表を取り消されても、申込料の返金はできません。郵便振替用紙は、本誌巻末に綴じ込んであります。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真等を含め 1 課題 2 ページとします。市販の A4 判上質紙に印字した原稿で投稿して下さい。後述の「4. 講演原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD-ROM 版講演要旨集の作成に伴い、講演原稿のファイルを PDF 形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容の Excel ファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 講演原稿 PDF ファイルならびに投稿票 Excel ファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）として下さい（例：「taikai tarou.pdf」, 「taikai tarou.xls」）。これらファイルを電子メールで taikai@jsidre.or.jp へお送り下さい。メール発信の際、表題（Subject）も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを 2 週間以内に返信します。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、表に「大会講演原稿在中」と朱書きしてご送付下さい。原稿は折ったり、しわにならないよう十分注意して送付して下さい。

●送付物

- 1) 講演申込料の振替の写し
- 2) 講演原稿
- 3) 講演原稿コピー 2 部
- 4) 投稿票（このデータをもとにプログラム等を作成するため間違いのないよう必ず確認して下さい。）

●データ送信

5) 投稿票 Excel ファイル

	代表 発表者 ○印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1									下の段を右につづける
2									
3									
8									

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E-mail	講演題目	講演題目(英文)	第 1 講演 希望部門	第 2 講演 希望部門

下の段を右につづける

下の段を右につづける

6) 講演原稿 PDF ファイル

- (7) 締切：平成 24 年 4 月 6 日（金）消印有効
（遅延は不可）

なおデータ提出後は修正等差し替えが出来ない場合がございます。

(8) 申込み・問合せ先

（社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 F
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : taikai@jsidre.or.jp
郵便振替：00160-8-47993

加入者名：社団法人農業農村工学会
銀行から郵便振替口座へのお振込みの場合は次の口座番号となります。
金融機関コード：9900
銀行名：ゆうちょ銀行
店番：019 当座預金 0047993

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい。入会手続き中の方は会員番号欄に入会手続き中と記載して下さい。
- (2) 講演概要は、必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい（英文不可）。
- (3) 氏名、所属機関、講演題目（副題も含めて）は、必ず講演原稿と一致させて下さい。
- (4) 講演希望部門（第 1 希望・第 2 希望）とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌 69 ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
- (5) 投稿票は、下記の様式で作成して下さい。様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。

キーワード1	キーワード2	キーワード3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	発表 形態	変更 諾否	講演の概要 (200字以内)

4. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿用紙は、A4判(横 210 mm, 縦 297 mm)の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上: 25 mm, 下: 27 mm, 左: 23 mm, 右: 25 mm

- (2) 原稿は、モノクロで、B5判に縮小し製本します。

- (3) 書式

- ① 文字: 文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

- ② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12~14ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10~12ポイントで和英併記して下さい。また、連名の場合

には代表発表者の前に○印をつけて下さい。

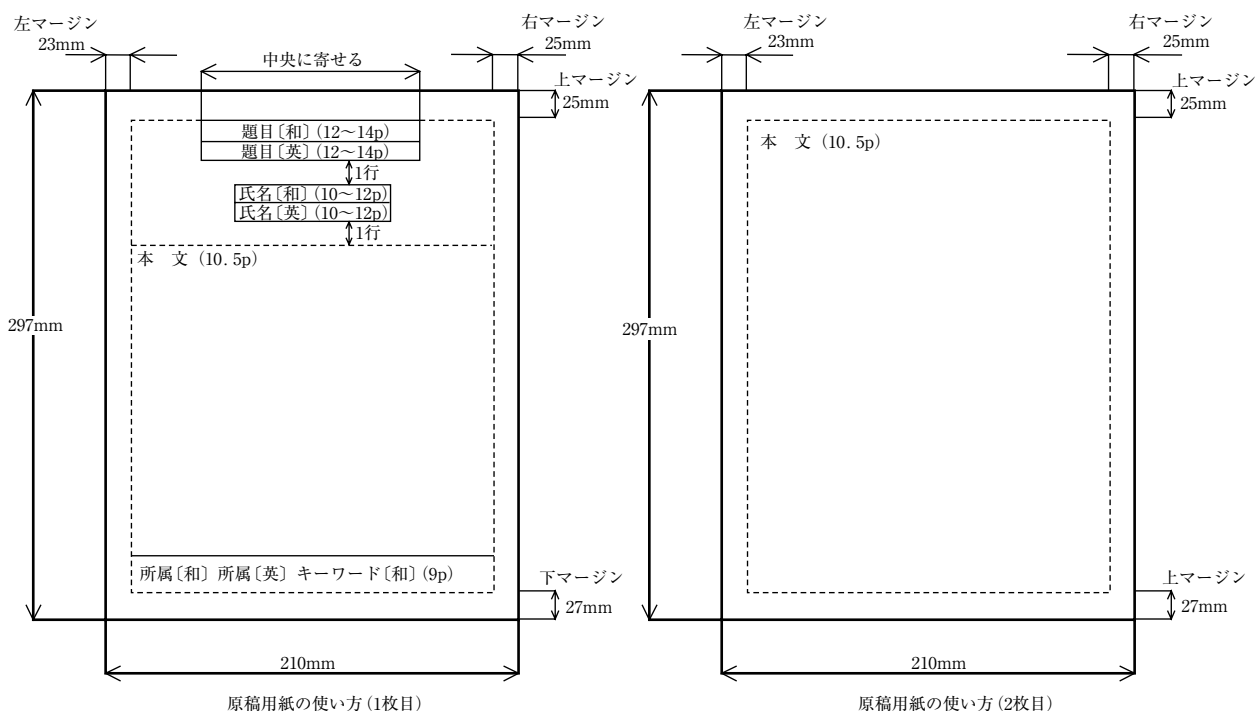
所属は、1ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

- ③ 図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書込み(あるいは貼込み)、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表の表題にも英語を併記して下さい。

5. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応 用 力 学	6. 材 料 ・ 施 工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壤改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農業土木教育・農業情報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成24年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関（共同研究の場合は、代表発表者に○印をつけて下さい。氏名の順序は、原稿と一致させて下さい。）

	代表発表 者に○印	会員番号	氏 名	フリガナ	所属（和）
				ローマ字（姓__名）	所属（英）
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

代表者の連絡先（住 所）〒

(TEL)

(FAX)

E-mail

Excel ファイルの送信日：

2. 講演題目（題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。）

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門（第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。）

第1希望		第2希望	
------	--	------	--

1. 水理 2. 水文・水質・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード（上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。）

1		2		3	
---	--	---	--	---	--

5. 図表などの数

写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数

6. 発表形態

--

1. 口頭発表 2. ポスター発表

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか？

--

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要(200字以内)（必ず日本語で記入して下さい。）

--

平成 24 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

研究委員会

平成 24 年度大会講演会（9 月 18 日～20 日、北海道大学札幌キャンパス）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとします。

企画の申込締切は 2 月 17 日（金）です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局（taikai@jsdre.or.jp）まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ：「オープン・タイプ」、「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名、所属、連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要(200 字以内)

なお、類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 100 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2～3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用して下さい。

い。

企画セッションでの発表者は、企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが、複数の発表は認めませんので各オーガナイザーは発表者選定にあたり、この点に十分留意して下さい。

なお、企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 100 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画セッションの申込料は、講演題数にかかわらず一律 12,600 円となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2 月 17 日（金）
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡
3 月 2 日（金）頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始（発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む）
3 月 5 日（月）頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3 月 30 日（金）
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切
4 月 6 日（金）

申込み・問合せ先

（社）農業農村工学会事務局大会企画セッション担当

宇津木あて

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：taikai@jsdre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・

個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 22 年度までに 56 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

郵便振替：00140-2-54031

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い**災害対応特別委員会**

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報は、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

論文集の電子投稿・査読システムの運用開始について（予告）**農業農村工学会論文集編集委員会**

論文集編集委員会では、かねてより検討しておりました電子投稿・査読システムについて、今般、JST（科学技術振興機構）の J-STAGE 3 審査投稿システムを導入して運用することとなりました。使用システムは現在世界的に広く普及している ASP（Application Service Provider）の Editorial Manager を利用します。

Editorial Manager はすでに水文・水資源学会や地盤工学会

で導入されているものと同一のもので日本でも実績があります。

今後システムの具体的な構築を行い、平成 24 年 3 月中旬の運用開始を目指して準備を進めます。

なお、運用開始日および投稿方法などの詳細については、学会誌・論文集の会告、学会ホームページで順次ご案内いたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!**行事企画委員会****技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会**

行事企画委員会では、継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、在宅のまま手軽に CPD 単位取得ができる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回多くの解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。まずはご登録をいただき、是非、通信教育にご解答をお寄せ下さい。

1. 参加資格

参加資格条件としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会や CPD 個人登録をされていない方は農業農村工学会と継続教育機構のホームページから入会申込書、登録申込書をダウンロードし、それぞれ手続きを行って下さい。

2. 参加登録受付の時期と登録方法

参加登録の受付は随時行っています。登録方法は継続教育機

構のホームページにある「通信教育参加申込書」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/moushikomipeji.html>)に必要事項を記入し、メール(kaito@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03-5777-2099)で送付して下さい。

3. 出題方法

出題は毎回、3カ月前に発刊された学会誌の報文等の事実的な内容から、択一式の問題をCPD運営委員会通信教育部会が10問作成し、学会誌上に掲載します。

4. 解答方法と解答期限

解答の方法としては、継続教育機構のホームページにある「通信教育解答用紙」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/kaitoupeji.html>)をダウンロードし、正解と思う番号および必要事項を記入して、メール(kaito@cpd.jsidre.or.jp)で送付して下さい。なお、解答期限が、第71回通信教育問題より「問題掲載号の翌月末日まで」となっております。期限を過ぎた解答の受付は一切できませんので、十分ご注意下さい。

5. CPD ポイントの採点とポイント集計年度区分

採点の結果、7割以上正解で1.5CPDポイント、満点で2CPDポイントの取得となり、前年度の2月号出題分から当該

年度の1月号出題分までの12カ月分を、当該年度の通信教育でのCPD取得ポイント分として取得者個々の継続教育記録に自動登録いたします。採点後のポイント取得結果は(下記7.で取得結果送付を希望する方以外は)毎年8月頃に送付する「CPD取得一覧表」でお知らせします。それまでは出題の翌々月に学会誌上で公表する「解答」から、自己採点をお願いします。なお、解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

6. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、当分の間、通信教育参加費は無料です。

7. CPD 通信教育参加者の特典

毎年4月に、前年度分(2月号～翌1月号分)の通信教育で取得したCPD採点結果を算出します。採点結果の通知が必要な通信教育登録者は、事前に農業農村工学会継続教育部までご連絡下さい。また、農業農村工学会誌購読分と通信教育で取得したポイント分についての「CPD取得証明書」(暫定版)を希望者に有料で発行いたします。

平成 25 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成25年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第81巻(平成25年1～12月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限りです。

5. 締 切 秋季～冬季 平成24年3月31日

春季 平成24年6月30日

夏季 平成24年9月30日

6. 審 査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第81巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成25年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、

郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
80巻 2号 国内外における農地での塩類集積の事例と課題(仮)	公募終了
3号 これからの農業水利施設の維持管理運営のあり方について(仮)	公募終了
4号 東日本大震災から1年(仮)	公募なし
5号 土壌保全による環境保全とその評価(仮)	平成24年1月16日
6号 大会関連	公募なし
7号 東日本大震災関連	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

80巻5号テーマ「土壌保全による環境保全とその評価」(仮)

人類の繁栄と衰退の間にあるのはわずか数十cmの土壌であることは日頃、あまり意識されていません。デイビット・モントゴメリーは「土の文明史」(築地書館, 2010)で「土が文明の寿命を決定」していると述べています。また、土壌には生物種全体の25%以上が生息していると言われており、生物多様性と密接な関係があります。

日本では、水稻栽培という土地・水利用技術の中で自然環境と一体化した形で土壌保全と環境保全が行われてきました。しかし、田畑転換、転作が進み、1970年には340万haあった田

は2010年には250万haとなり、うち水稻作付面積は160万ha程度となっています。

本特集では、土地利用の変化が土壌および環境に与える影響に着目し、保全技術およびその評価手法に関する報文を募集します。耕起方法や排水方法などの工学的技術、富栄養化物質の移動などの化学的側面、生物多様性の保全という側面それぞれから報告いただき、土壌という自然資源を次の世代へ引き継ぐ方法について論じる機会としていただきたいと思います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 9, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)

学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌, 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は, 2011年12月に Vol.9, No.4 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より, トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に, SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また, 世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, 年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, **投稿料, 掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局: Dr. Yoshiyuki SHINOI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: shinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Management Editor: Dr. Yoshiyuki SHINOI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture
University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering,
Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering Na-
tional Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural Sys-
tem Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま
す。

平成 23 年度京都支部講習会・研修会の開催について（第 3 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 24 年 2 月 16 日（木） 11：00～16：30
(受付 10：00～)
2. 会 場 キャンパスプラザ京都 第 2 講堂
京都駅正面出口、徒歩 5 分
3. プログラム
11：00～ 開会挨拶 内田京都支部長
11：10～12：10 「農業水利施設の長寿命化のための手引き」
について
農林水産省農村振興局施工企画調整室課長補佐
森井秀之
13：10～14：10 東日本大震災における災害対応特別委員会
の取り組み状況の報告
(社) 農業農村工学会災害対応特別委員会副委員長
松本精一
14：20～15：20 豊川用水施設の大規模地震対策
(独) 水資源機構豊川用水総合事業部第二調査設計課長
村上喜昭
15：30～16：30 ため池減災の取り組み（仮題）
農林水産省農村振興局災害対策室課長補佐 石橋正之

4. 参加申込みと参加費振込先

- (1) 参加費 会員：2,000 円 非会員：2,500 円
- (2) 参加申込み
右記様式により、E-mail、FAX または郵送でお申し込
み下さい。
参加申込締切は平成 24 年 2 月 10 日（金）です。
- (3) 参加費振込み

参加費は次の銀行口座に納入をお願いします。
振込手数料については振込人負担をお願いします。
振込元が分かるように所属・氏名は必ずご記入下さ
い。

振込後の参加費等の返金は原則応じられません。

(4) 振込口座

銀行名：京都銀行

店番：102

口座番号：3162005

名義人：農業土木学会京都支部近畿事務局代表者那須隆
夫

(ノウギヨウドボクガツカイキョウトシブキンキ
ジムキョク ダイヒヨウシヤ ナスタカオ)

5. 申込窓口・問合せ先

近畿農政局整備部設計課 吉村、茂木、橋本

〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下ル

☎075-414-9513 FAX 075-417-2090

E-mail : mitsuo_yoshimura@kinki.maff.go.jp

【申込様式】

平成 23 年度京都支部講習会・研修会参加申込書

所属機関名：_____

所在地：_____

連絡者名（ふりがな）：_____

電話番号：_____

E-mail アドレス：_____

氏 名	所 属	CPD 番号	備 考

平成 23 年度中国四国支部シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、若手技術者の農業土木事業への真の興味
と情熱を喚起し、支部の更なる発展が図られるようシンポジウ
ムを開催します。

会員各位のみならず、広く技術者が参加できますので、ふるっ
てご参加下さいますよう、お知らせ申し上げます。

1. 主 催 農業農村工学会中国四国支部
2. 後援（予定） 中国四国農政局

3. テーマ 「これからの農業土木技術者のあり方
～ストックマネジメントに係る技術力の向上～」

4. 期 日 平成 24 年 2 月 23 日（木）

5. 会 場 ピュアリティまきび 2F 千鳥

〒700-0907 岡山市下石井 2-6-41

☎086-232-0511 FAX 086-224-2995

6. プログラム

- 12:30~13:30 受付
 13:30~13:35 開会挨拶
 13:35~14:35 基調講演
 「H23年度ストックマネジメント関連予算・制度の概要について」(仮称)
 農林水産省農村振興局水資源課施設保全管理室長 圓山満久
 14:35~15:35 基調講演
 「最近のストックマネジメント関連技術の動向について」(仮称)
 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
 15:35~15:50 休憩
 15:50~16:50 事例発表
 「ストックマネジメント技術高度化事業」(仮称) ほか
 16:50~17:55 閉会挨拶
 17:30~ 情報交換会(別会場)

7. 参加費 無料

8. 情報交換会 別会場にて開催。会費は3,500円程度(当日現金にて支払い)。

9. 参加申込みおよび連絡先

〒700-8532 岡山市下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎
 中国四国農政局整備部設計課事業調整室 井上, 増田
 ☎086-224-4511(内線2611, 2623) FAX 086-234-7445
 E-mail: hiromi2_masuda@chushi.maff.go.jp

10. 参加申込要領

整理の都合上, 2月10日(金)まで下記様式によりお申し込み下さい。(農業農村工学会員以外の方も参加できます。)

氏名	(農業農村工学会 CPD 番号)
所属機関・役職	
所在地	
電話番号	
FAX 番号	
農業農村工学会以外に加入している学会 (シンポジウムを効果的に運営させることにのみ使用させていただきますので、ご協力いただける方は記入願います。)	
情報交換会への参加	参加 ・ 不参加

平成23年度農業水利研究部会研究集会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では, 平成23年度研究集会を下記のとおり開催いたします。東日本大震災の発生から10カ月を迎え, 被災地域での復旧・復興が進められていますが, 特に農業・農村分野での取組みにおいては行政機関や土地改良事業団体連合会, 土地改良区, 地元農家の役割は非常に大きいと考えます。そこで, 今年度は利根川下流域での地震に伴う液状化による水利施設への影響や用水確保といった問題に対して, 土地改良区や地元農家がどのように取り組んできたのかを報告していただき, 今後の防災対策や安定した水利条件を考える上での参考にしたいと考えます。

1. テーマ 東日本大震災による被災地の水利復興における土地改良区の取組み(仮題)
 -千葉県北部利根川下流域での事例-
 2. 日時 平成24年2月25日(土) 13時~17時

3. 場所 航空会館 603 会議室

東京都港区新橋1-18-1 ☎03-3501-1272
 (JR新橋駅から徒歩6分程度)

4. 講演者および講演題目

詳細は本誌2月号および当部会ホームページ(学会ホームページからアクセス)に掲載します。

5. 参加費 500円

6. 問合せ先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
 東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
 地域資源利用学研究室(担当: 中村好男)
 ☎03-5477-2337 FAX 03-5477-2620
 E-mail: nyoshi@nodai.ac.jp

水土文化研究部会第9回研究会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定教育プログラム申請中



(社)農業農村工学会のビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において, 「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

そこで農業水利施設の中で歴史的, 機能的に重要な施設である取水堰に焦点を当て, 水と構造物と人との関わりへの認識を深めるために, 「取水堰の歴史的価値と評価」と題して, 第9回水土文化研究会を開催する。

1. 日時 平成24年3月1日(木) 13:00~16:00
 2. 場所 農林水産共済組合南青山会館

3. プログラム

講演

「川の形と流れを見すえた堰のつくり方」

岩手大学教授 三輪 式

「河川横断構造物のあり方を考える一川と人とのふれあいを再考する」
 新潟大学名誉教授 大熊 孝

4. 参加料 無料

* (社)土地改良建設協会研修会と連携行事となっています。

第57回風に関するシンポジウムの開催について

第57回風に関するシンポジウムを下記のとおり開催します。ここに講演募集を行いますので、奮ってご講演、ご参加下さい。

幹事学会：日本沙漠学会、日本農業気象学会

共催学会：農業農村工学会ほか15学協会（予定）

1. 日 時 2012年3月21日（水）10:00～17:00（予定）

2. 場 所 日本学術会議5階会議室（5A1・2）
東京都港区六本木7-22-34 ☎03-3403-3793

3. 参加費 無料

4. 特別講演（予定）

(1) 冬季日本海側の突風に関する稠密観測

気象研究所 楠 研一

(2) 黄砂・風と口蹄疫・麦さび病

筑波大学北アフリカ研究センター 真木太一

5. 講演申込み

一般講演発表希望者は、発表題名、発表者氏名（登壇者に○印）・所属・所在地、E-mail アドレス、電話・FAX、および講演要旨200字程度をご記入の上、下記宛、E-mail 等でお申し込み下さい。なお、講演予稿集は作成しません。

6. 申込期限 2012年1月31日（火）

7. 申込先

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学北アフリカ研究センター 真木太一

TEL&FAX 029-853-6442

E-mail : maki.taichi.fe@u.tsukuba.ac.jp

第49回アイソトープ・放射線研究発表会発表論文募集について

この研究発表会は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、アイソトープと放射線の理工学、ライフサイエンス、薬学、医学への利用技術を中心とした研究およびその基礎となる研究の発表と討論を行い、各分野間の知見と技術の交流を図るものです。奮ってご応募、ご参加下さいますようご案内いたします。

新企画として、若手研究者を対象とした若手優秀講演賞（仮称）を設けます。また、発表申込区分が変更になりました。詳しくは日本アイソトープ協会ホームページなどでご確認ください。

1. 主 催 日本アイソトープ協会

2. 共 催 農業農村工学会ほか60学協会（予定）

3. 会 期 2012年7月9日（月）～7月11日（水）

4. 会 場 東京大学農学部弥生講堂
（東京都文京区弥生1-1-1）

5. 内 容

それぞれの研究分野において、その専門的な成果を得た放射性同位体、安定同位体や放射線の利用研究、およびこれら利用の基礎となる研究。少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること。

6. 発表者の資格

発表者の一人が本発表会の主・共催学協会の会員であること。

7. 発表形式 口頭発表またはポスター発表。

8. 口頭発表時間

1件15分（発表12分、討論3分）

Power Point（Microsoft 社製）利用による発表とします。

9. ポスター発表

1件の発表に展示パネル（横115cm×縦170cm）1枚を用意

します。

10. 申込方法

日本アイソトープ協会ホームページ(<http://www.jrias.or.jp/>)上からお申し込み下さい。ホームページを利用できない方は事務局までお問い合わせ下さい。

11. 申込締切 2012年2月29日（水）

12. 講演要旨

口頭発表、ポスター発表とも、1件につきA4判用紙1枚。

要旨原稿の書き方と見本は、日本アイソトープ協会ホームページに掲載されています。

13. 講演要旨原稿締切 2012年4月13日（金）

14. 参加費 2,000円（学生は無料）

要旨集3,000円（消費税含む）

15. その他

(1) 論文集は発行しません。日本アイソトープ協会が発行する学術論文誌RADIOISOTOPESへの投稿を歓迎します。

(2) 発表申込件数、内容等によっては口頭発表からポスター発表に、またはポスター発表から口頭発表への変更をお願いすることがあります。

(3) 英語での口頭発表が可能です。ご希望の方はお申込みの際に、内容説明欄にその旨を付記して下さい。

16. 問合せ先

アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会事務局

日本アイソトープ協会学術部学術課 高田、稲毛

〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45

☎03-5395-8081 FAX 03-5395-8053

E-mail : gakujutsu@jrias.or.jp

URL : <http://www.jrias.or.jp/>

第7回 ICID アジア地域会議における発表論文の募集について

2012年6月、オーストラリア・アデレードにおいて、国際かんがい排水委員会（ICID）第63回執行理事会、第7回アジア地域会議が開催されます。

ICID 日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、下記の連絡先までご連絡下さい。なお、提出いただいた要旨（Abstract）は、ICID 日本国内委員会で内容を確認した後に、会議主催者に提出いたします。

1. 会議開催概要

開催期間：2012年6月24日（日）～30日（土）

開催場所：オーストラリア・アデレード

2. 発表者募集の対象会議

ICID 第7回アジア地域会議

3. 募集テーマ

【Integrated water management at basin and district level】

- ・ Modernisation of irrigation and drainage
- ・ Benchmarking water delivery services
- ・ Water accounting
- ・ Best business practice for irrigation water suppliers
- ・ IT and water management

【Horticulture】

- ・ Urban and Turf irrigation
- ・ Water sensitive urban design (WSUD)
- ・ Production horticulture (fruit and vegetables)
- ・ Best practice pressurised irrigation

【Agriculture】

- ・ Food production (grains, oilseeds etc)
- ・ Fibre and pastures (cotton, hemp etc)
- ・ Multi-and inter-cropping
- ・ Soil moisture and plant vigour monitoring

【Drainage and flood management】

- ・ Waterlogging
- ・ Salinity and water quality control
- ・ Controlled drainage
- ・ Flood recovery and risk management

【Water for the environment】

- ・ Water needs assessments
- ・ Competition and sharing of multiple use of water

・ Wetland management and environmental water supply

・ International treaties; objectives and achievements

【Regional cooperation】

- ・ Knowledge dissemination and sharing
- ・ Aid projects in urban and rural water management
- ・ Globalism, regionalism, localism
- ・ Virtual water a form of water trade
- ・ Together strong

なお、論文募集テーマは、下記の第7回アジア地域会議のウェブサイトにも記載されておりますのでご確認ください。

http://online.saneevent.com.au/ial2012/index.php?option=com_content&view=article&id=66&Itemid=80

4. 参加表明および要旨の提出

2012年1月24日（火）までに、論文提出者の氏名と要旨（Abstract）を、それぞれ E-mail で、6. に記載の宛先まで、ご提出下さい。

5. 要旨の作成要領

要旨については字数の制限は定められていませんが、500～600字を目安に英文で作成。連絡先著者の氏名をファイル名としたワードデータ（例：総研太郎の場合、souken_tarou.doc）とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレスを記載下さい（連絡先著者を最初に記載）。

なお、提出いただいた要旨については、日本国内委員会で内容を確認いたします。その結果については、2012年1月31日（火）までにご連絡いたします。

詳細は、下記の第7回アジア地域会議のウェブサイトをご確認ください。

http://online.saneevent.com.au/ial2012/index.php?option=com_content&view=article&id=66&Itemid=80

主催者より追加情報があれば、発表予定者にご連絡いたします。

6. 論文送付先および連絡先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門 NN ビル
（財）日本水土総合研究所（事務局）

☎03-3502-1576 FAX 03-3502-1329

担当：吉井弘治 kouji-yoshii@jiid.or.jp

高野 伸 shin-takano@jiid.or.jp